

## 「情報化」が意味することは？

総合情報基盤センター センター長 黒田 卓  
(人間発達科学部 教授)

私の専門である初等中等教育の情報化の分野では、1985年をコンピュータ教育利用元年、1995年をインターネット教育利用元年とよんでいます。大学でもほぼ同時期、もしくはその少し前から一般的に利用され始めたと考えます。すでに約25年、コンピュータやネットワークは大学の教育・研究、業務支援に必要なものになっています。当初は限られた専門家の利用に限られていましたが、現在ではすでに誰もが、いつでも、どこでも使えることがあたりまえになりました。そのせいか、すでに「情報」という言葉や、情報を取り扱うメディアとしてのコンピュータ、ネットワークについて、あまりにもあたりまえになりすぎてしまっているのではないかと危機感を感じています。

総合情報基盤センターは、昭和40年(1965年)に富山大学計算センターとして計算機を活用した研究支援を目的として設置されましたが、現在では、教育・研究と一部の業務支援のためのセンターとしてその役目を大きく変えてきました。最近では、ネットワークインフラの安定的運用、コンピュータウイルスやサイバー攻撃に対する対応などが業務の大きな割合を占めています。インフラとしての情報システムを整備し、安定運用していくことは大変重要ですが、それらをより有効に、自由に活用していくためには、個々のユーザが負うべき責任も残されています。そのバランスがなかなか理解されていません。

情報システムの整備、維持管理にかかるコスト、使用する電力量、それにとまなうCO<sub>2</sub>排出量、発熱量なども、まだ実感は少ないかもしれませんが、徐々に、でも確実に私たち大学構成員の教育・研究・業務支援に影響を及ぼし始めています。

日本では、「情報化」は、「様々な業務実施にコンピュータやネットワークを取り入れ行うこと」と考えられる場合が多くありました。しかしながら、「情報化」のもっとも重要な部分は、実は「効率化」です。様々な情報と、その流れを可視化し効率化することにより、業務を楽にし、その結果、空いた時間をより有効に活用できるようにする必要があります。そのためには、業務を進めていくための組織の見直しまで含めて行わなければ効果がありません。情報の流れ、共有、公開すべき情報と保護しなければならない情報の仕分けと管理、様々な変革が求められます。単にあたらしいシステムを入れれば変わるものではありません。

総合情報基盤センターでは、平成22年度にシステムの更新を予定しています。なかなか先を見通すことは難しい時期ではありますが、既存のサービスを可能な限り維持しつつ、今後の本学の情報化に柔軟に対応できるシステムを考えていきます。それには是非、本学構成員の皆さんのお知恵をお借りしたいと思っています。

また、現在本学で行われている情報サービスにどのようなものがあり、どう使われているかを共有するため、今回本学で運用されている様々な情報サービスの運用責任者、担当者に、そのサービスについて紹介いただくことを計画しました。様々な補助金やGP等で新しいサービスが始まっていますが、それらの全体像を把握したり、相互の連携等様々な問題点を共有したりする機会はこれまであまりありませんでした。今回の特集を通して、本学で取り組まれている情報サービスについて理解が深まり、今後の大学全体の情報化の部分でもきちんと位置づけていくことができると考えています。

業務の効率化に加え、大学の広報戦略、学生支援サービス向上、研究支援等、情報化をより必要としている部分はまだまだたくさん残されています。総合情報基盤センターも、限られたスタッフではありますが、これら大学の情報化推進のための支援業務及び支援に係る研究に、今後もより一層の努力をかさねてまいる所存です。今後とも本学構成員の皆様方のご支援とご協力をお願いいたします。